

子ども目線で考える 新型コロナウイルス感染症対策

講師 富山大学学術研究部医学系小児科学
たねいち ひろみち
種市 尋宙 先生

7月27日、魚津市学校保健会研修大会を開催しました。感染拡大防止のため、今年度は学校医や学校関係者のみで行いました。

コロナ禍で、心身に不調を来す子どもが増えています。はたして一斉休校や行事の中止は必要なのでしょうか。

講師の種市先生は、小児科と小児救急のスペシャリストであり、富山市の教育委員会等と連携して立ち上げた「富山市新型コロナウイルス感染症対策検討会議」の活動は、全国的にも注目されています。学校に必要な感染症対策、あるべき方策についてご講演いただきました。

過剰な

コロナ禍における 感染症対策が子どもたちにもたらしたもの (富山市の統計・アンケートより)



肥満傾向者の増加



メディア利用時間の増加



給食における残食量の増加



学校が楽しくないと感じる児童生徒の増加

全国的には、うつ傾向や摂食障害の相談で受診する子どもたちが急増しています。

他にも子どもたちが背負うリスクとして、「事故のリスク」「虐待のリスク」「事件や性のリスク」等が挙げられます。



正しく知ろう！ 子どもと新型コロナウイルス感染症

子どもたちは、感染しにくく、拡大しにくく、重症化しにくい

- ◇ インフルエンザと違い、子どもが発端となる事例は1割にも満たない。
- ◇ 小中学生の感染経路は「家庭内感染」が大多数であり、学校は感染拡大の主たる場所ではない。
- ◇ 変異株が出現してからも子どもの感染割合に大きな変化はない。変異株の感染力が強いのは確かだが、子どもにのみ感染力が強いわけではなく、重症度が高い傾向もみられていない。
- ◇ 富山県小児コロナのデータベース 71 例では、無症状事例が最多。71 例中治療介入は一例もなく、全て経過観察のみで終了している。

不確定な情報・不安をあおるような報道に惑わされず、基本的な感染対策を守っていくことが大切です。



7月27日現在

子どもたちの日常を取り戻そう！



「仕方がない」と我慢させるのではなく、できる方法を模索していきましょう。

感染を恐れて学校行事を一律に中止するのではなく、開催時期の見直しや内容の精選を行い、最新の医学的知見、地域の感染状況等を考慮しながら、「どうしたら実施できるのか」を模索し、かけがえのない「今」を大切にしていけます。

教育

(子どもたちの未来)

感染対策

(大人たちの今)

基本的な
感染症対策で
十分な予防効果！

- ◇ 手洗い
- ◇ マスク
- ◇ 咳エチケット
- ◇ 環境 (消毒・換気)

対策の バランスは？

感染状況と子どもたちの変化、環境を見ながら判断していくことが求められています。



場面によって 「マスクはリスク」

マスクは熱中症に関してはかなりの危険因子。命にもかかわるリスクとなり得ます。

いま、大人がすべきこと

- ◇ できるかぎり行事をつぶさない
- ◇ 専門家が連携して実施する方法を考える
- ◇ ゼロリスクを求めない
- ◇ 子どもたちのクラスター発生を責めない
- ◇ 子どもたちのデータを蓄積する
- ◇ できるかぎり子どもたちに自由を



子どもたちの声なき声に 耳を傾けよう

※ 「富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議」のリーフレット VOL.1～12 は、富山市ホームページからご覧いただけます。

— 後記 —

感染拡大で社会が混乱する中、子どもたちにとって本当のリスクは何か、私たち大人が子どもたちのためにすべきことは何か、改めて考えさせられる講演でした。

これからの季節、魚津市では、運動会、修学旅行、合唱祭、文化祭…と、子どもたちが楽しみにしている行事が続きます。

感染者の増減が繰り返されている状況ではありますが、子どもたちがより健やかな生活を送れるよう、本質を見極めながら対応していきたいと思っています。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

